

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2007～2010

課題番号：19202017

研究課題名（和文）GISを用いた東アジア都市・王城遺跡形成史の比較研究

研究課題名（英文）Comparison research of historical formation in the city and capital sites on the east Asian by GIS

研究代表者

山中 章 (Yamanaka Akira)

三重大学・人文学部・教授

研究者番号：40303713

研究代表者の専門分野：歴史考古学（比較都城史）

科研費の分科・細目：史学・史学一般

キーワード：宮都(都城) 都市形成 GPS GIS 3DVR 表現

1. 研究計画の概要

東アジア諸地域に所在した古代王権は、秦による中国の統一以降、その強い影響下に置かれた。特に漢は、周辺諸地域を直轄支配するため、政治的・軍事的拠点を朝鮮半島からインドシナ半島にかけての広範囲に置いた。中国統一王朝の文化はシルクロード等を経て西アジアに及び。漢字文化圏とアルファベット文化圏とが接触し新たな文化生み出したといわれる。しかしその実態は各地域での調査技術や方法論の相違から未だに比較の俎上に載せることすら困難な事態にある。そこで、中国での都市形成の原点ともいえる漢・唐・明代の都城遺跡の現地踏査を行って実態の把握に努め、日本や西アジアではGPS測量を行うと共に、高解像度写真を用いて、都市の立地や諸機能の配置について比較研究を行う。

2. 研究の進捗状況

本研究は3つのプロジェクトに分けて分担研究を進めている。第1プロジェクトでは東アジアの都市形成に関する総合的な比較研究である。既に東アジアの主要遺跡のある中国、ヴェトナム、韓国についての踏査を終え、現在西アジアの遺跡の一つフェニキア・ローマ時代の都市遺跡テイル遺跡群に焦点を当てて都市発祥の地との比較をとおして、東アジア都市形成の特殊性、特徴を解析している。

第2プロジェクトはGPS測量成果を基に、GISソフトで絶対的位置関係を導き出し、各地域の遺跡において3DVR（3次元立体仮想

現実）復原を行い、その立地の特徴や共通性を解析する試みである。ヴェトナムの古代宮都タンロン遺跡、中国の五関の一つ武関跡、日本古代宮都群・鈴鹿関跡（三関）他の測量を行い現在GISソフトで解析すると共に、3DVRモデルの構築に努めている。鈴鹿関、武関、タンロンについてはほぼ基礎的作業を終え、現在最終的なモデル形成の作業を行っている。

第3プロジェクトはこうした2プロジェクトのために実際に測量を行い基礎データを供給するものである。購入したGPS機器によって、既にベトナム、鈴鹿関、テイルの測量をほぼ済ませ、現在測量成果の再点検を行っている。テイルについては次年度再度測量を行い比較研究のための最終データの提供を行う予定である。

以上、GPS測量において、当該政府からの規制により十分に実施できなかったものもあるが、それを補う新たな比較研究対象を見出し、補って余りある成果を生み出しつつある。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している

調査成果の中間報告の翻訳が遅れておりやや課題を残すが、概ね順調に進展している。

4. 今後の研究の推進方策

日本、中国、ヴェトナム、西アジアで得られたデータをGISソフトを用いて解析し、都市形成の共通点や相違点に付いての見解をまとめる。

5. 代表的な研究成果
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

1. 黄 曉芬 「漢帝都長安の都市計画と造営理念」(『古代文化』第61巻第2号 2009年pp.43-58)

2. 山中 章 「難波解体と長岡京遷都-「大和」との決別」(『桓武と激動の長岡京時代』山川出版2008年pp.148-172)

[図書] (計1件)

山中 章・龐谷寿編『平安京とその時代』(思文閣出版 2009年 473pp.)